最優秀賞
一般建築物の部

～知的障碍の個性もつ利用者と
地域を繋ぐ居心地の良い住まい～

建築主：社会福祉法人　清輝会
設　計：株式会社　ゼロ･アーキテクツ プラス コンサルティング
施　工：輝建設　株式会社
所在地：千葉市緑区高田町149-2

エルピザの里

多様な人々を迎え入れる大庇を持つエントランスファサード

多様性という言葉を頻繁に耳にするようになったのは2015年にSDGsが国際目標として国連サミットにて採択された頃からだろうか。エルピザの里を訪れ、一般的に障碍者支援施設の新築は難しく、建物の老朽化の問題には生活を継続しながらの建替方法模索が必要である事などを知るにつれ、あえて目標に掲げなければならないほどに、多様性を受け入れる社会は当たり前に存在しているわけでは無く、未来へ向けて理想を実現しようとする人々の熱意と努力に支えられて初めて築かれていくのだと再認識させられた。

本作品の随所に見られるのは、知的障碍という個性を持つ人々が、自然豊かな場所で、地域の人と関わりながら、人生を過ごしていく場としてどうあるべきか、と考え抜かれて導かれた愛情にあふれるアイディアである。空間形状や素材の選択、光の有り様などによって多様な質感を持つ空間が、利用者のその時々の気持ちに寄り添えるように優しく存在している。どの空間に足を踏み入れても、利用者の穏やかな笑顔に出会うために、どうすれば精神的な安定を得られるかと想像力を働かせ、建築家や施設運用に関わる方々などが、長い時間をかけて互いの専門性に敬意を払いながら、既成概念にとらわれない先駆的な方法を含めて最良を探求してきたことが伝わってくる。

この施設が地域との共生を深め、知的障碍への理解を醸成し、10年後20年後と時間を経るほどに真の意味での多様性の起点として強く認識されることになるだろう。千葉県でこのような社会が育まれていく未来をとても誇らしく思う。

（加藤 未佳）

障害者の家としてのくつろげるユニット

ユニットとその他空間を柔らかく繋ぎ、
各々の過ごし方に寄り添う縁側廊下

（撮影全て/フォトワークス松田哲也）